

1999年7月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

北半球500 hPa 高度場は、極渦がカラ海付近やカナダ方面へと分裂し、北極海中央部付近では顕著な正偏差域が見られた。中緯度帯は東ヨーロッパからロシア・シベリア、太平洋北部にかけて帯状に正偏差に覆われ、北アメリカ南東部も弱い正偏差に覆われた。一方、北アメリカ西部、ラブラドル海、中央アジア、東シナ海では明瞭な負偏差域が見られた。偏西風は、北アメリカから大西洋東部にかけて平年より強く、わずかに北偏していた。中央シベリアから日本付近の亜熱帯ジェットは分流して平年より著しく弱かった。熱帯の対流活動は、特にフィリピンの北東海上で平年に比べ非常に活発だった。200 hPa 高度速度のポテンシャルの分布図を見ると、大規模発散域の中心は、フィリピンの東海上にあった。SOI (南方振動指数) は+0.5 (暫定値) だった。

世界の天候

① シベリア南部から中国北部にかけての高温

月平均気温はシベリア南部から中国北部にかけて高かった。モンゴルのウンドルハーンでは24.4°C (+6.2°C) であった。

② 日本から韓国にかけての多雨

月降水量は日本から韓国にかけて多かった。韓国の

釜山で557 mm (219%) だった。

③ ヨーロッパからアフリカ北部にかけての高温

月平均気温はヨーロッパ北部を除いて高かった。ロシアのモスクワで21.7°C (+3.5°C) だった。ロシア西部では熱波による被害や、干ばつの被害が伝えられた。

④ ロシア西部からイギリスにかけての少雨

⑤ ヨーロッパ南部の多雨

ユーゴスラビアのベオグラードでは262 mm (391%) だった。

⑥ 北アメリカ北東部の高温

月平均気温は北アメリカ北東部で高かった。米国のニューヨークで27.7°C (+3.3°C) だった。米国中西部や北東部で、熱波により90人以上の死者や家畜への被害が伝えられた。

⑦ 米国中部・東部の少雨

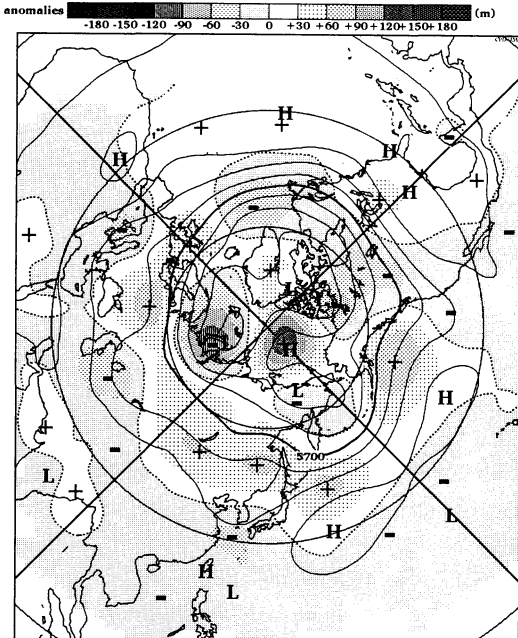
米国のニューヨークでは14 mm (14%) だった。

⑧ メラネシアの高温

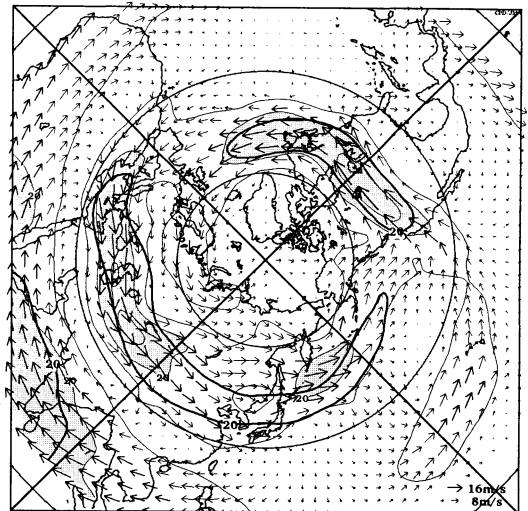
⑨ オーストラリア東端部からメラネシアにかけての多雨

オーストラリアのコフスハーバーで375 mm (598%) だった。

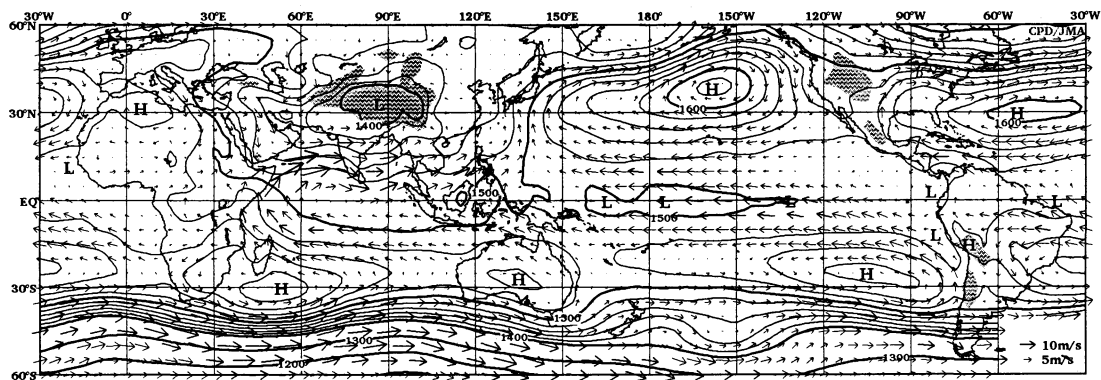
(気象庁気候・海洋気象部気候情報課 佐藤兼太郎)



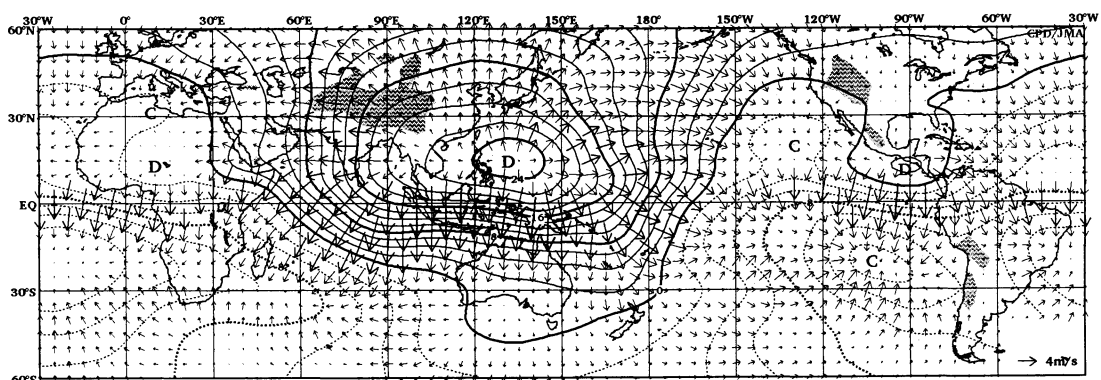
1999年7月の北半球月平均500 hPa 高度および平年偏差
等値線間隔は60 m, 偏差パターン間隔は60 m. 平年値は1961~1990年のデータに基づくもの。



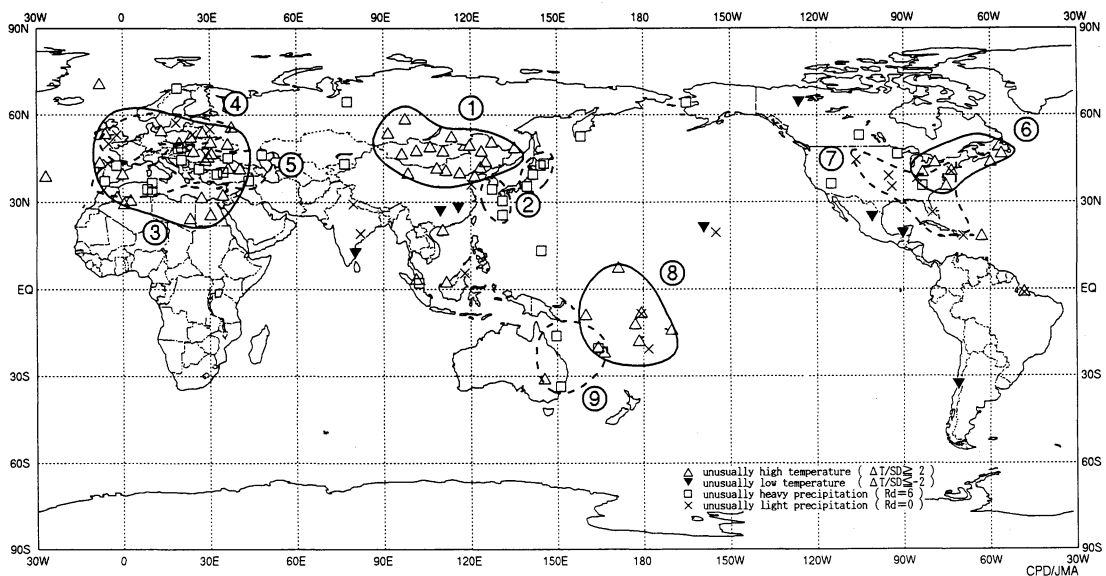
1999年7月の北半球月平均200 hPa 風速および風ベクトル
等値線間隔は20 m/s. 陰影部は平年で40 m/s以上.
平年値は1979~1996年のデータに基づくもの。



1999年7月の月平均850 hPa高度および風ベクトル 等値線間隔は20 m (1400 mまでは100 m)



1999年7月の月平均200 hPa速度ポテンシャルおよび発散風ベクトル 等値線間隔は 2×10^6 m²/s



1999年7月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
異常高温・低温は標準偏差の2倍以上, 異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0. 図中の番号は本文中の番号と対応している.